



# おおくす

福平小学校だより  
臨時号  
平成30年4月27日発行

本校の学力の実態 ～平成29年度鹿児島定着度調査結果～

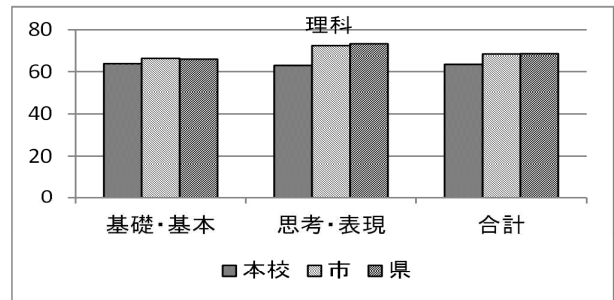
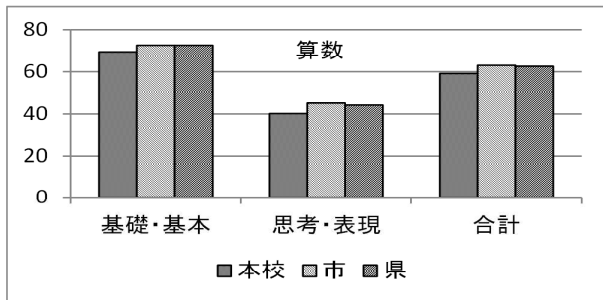
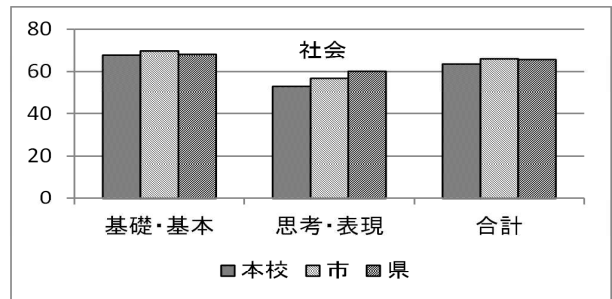
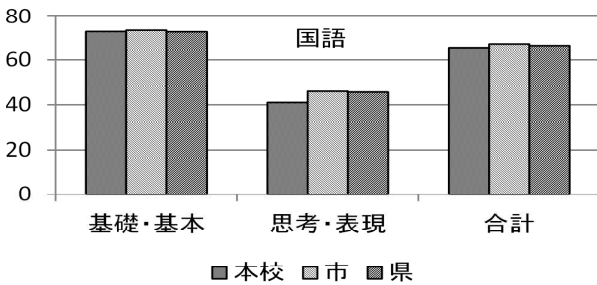
鹿児島県では、毎年1月に5年生を対象とした「鹿児島県学習定着度調査」を実施し、子どもたちの学力の把握と授業改善に努めています。調査の内容は、以下のようになっています。

教科：国語・社会・算数・理科  
内容：基礎・基本問題、思考・表現問題

本校でも1月に調査を実施し、その結果をまとめるとともに、それに応じた対応策を検討しました。今回はその抜粋を、保護者の方にも公表します。

なお、この結果が本校児童の学力の一部であり、全てを表すものではありませんのでご注意ください。

## 1 各教科問題別集計



- (1) 国語は、基礎・基本は平均並みであるが、思考・表現は5ポイントほど低い。
- (2) 社会は、基礎・基本は平均並みであるが、思考・表現は5ポイントほど低い。
- (3) 算数は、基礎・基本は平均並みであるが、思考・表現は5ポイントほど低い。
- (4) 理科は、基礎・基本は平均並みであるが、思考・表現は10ポイントほど低い。

## 2 国語

(1) 通過率の低い内容（ ）内は学習する学年)

- ① 場面の移り変わりに注意しながら叙述を基に想像して読むことができる。(4年)
- ② 事実と感想、意見などとの関係を押さえ自分の考えを明確にしながら読むことができる。(5年)
- ③ 目的に応じて適切な文章を複数選んで読むことができる。(5年)
- ④ 目的や意図に応じて簡単に書いたりすることができる。(5年)

(2) 対策

- ① 想像したことをノートに書かせ、さらに、どの言葉や文章からそう思ったのか、叙述に書かれていることを根拠にして書かせる。
- ② 複数の情報を関連付けそれをもとに論理的に書く活動の充実を図る。
- ③ 書かれていることを図や表にまとめてそれを用いて人に説明する。
- ④ 複数の資料を比べて読んだり、複数の条件をふまえて書いたりする。

### 3 社会

#### (1) 通過率の低い内容（全て5年）

- ① 工業地帯や工業地域の立地条件を、工業の種類や輸送手段と関連付けて考え、説明することができる。
- ② トレーサビリティーの考え方を理解し、見学や観察の視点として身に付けることができています。
- ③ 食料自給率を上げていくための具体的な取組について考えたことを表現できている。
- ④ 価格及び費用と、消費者のニーズとを関連付けて考え、説明することができています。

#### (2) 対策

- ① 海岸沿いと同じように詳しく考え、類似問題との区別が理解できるようにする。
- ② 漁業の単元で出てくるトレーサビリティーを、農業や畜産でも関連づけて考えさせる。
- ③ 「食料自給率」や「地産地消」の基本用語を取組も条件を満たしながら押さえる。
- ④ 自動車の経費の内訳を詳しく調べるだけにとどまらず、それらを削減するとどうなってしまうか考える。

### 4 算数

#### (1) 通過率の低い内容（（ ）内は学習する学年）

- ① 全体量（合計の秒数）を平均から算出し、合計秒数と比較して目標に足りないことに気付く。（5年）
- ② 共通する図形の面積の関係を捉え、その関係が成り立つことの説明。（5年）
- ③ 折れ線グラフと棒グラフを関連させて読み取れたことの説明。（4年）
- ④ 棒グラフを読み取って、折れ線グラフをかく。（4年）

#### (2) 対策

- ① 分かっていることや尋ねていること等大切な言葉に線を引ながら問題文を理解させることを徹底する。
- ② 課題解決に必要な情報を利用して、課題解決の過程を筋道立てて説明できるように、考えをノートに書かせたり、お互いに説明させたりする。
- ③ 数の大小を比べるなら棒グラフ、変化の様子を見るなら折れ線グラフ、割合を比べるなら円グラフや帯グラフと、目的に応じて使い分ける。
- ④ 言葉を指定して、説明させるなど言語活動の充実を図る。

### 5 理科

#### (1) 通過率の低い内容（（ ）内は学習する学年）

- ① 磁石につけた釘が磁石になることへの理解（3年）
- ② 乾電池のつなぎ方や向きによって、流れる電流の大きさや、流れる方向が違ふことへの理解。（4年）
- ③ 発芽前後の子葉の変化から、発芽するときに、子葉の澱粉が使われていることを考えることができる。（5年）
- ④ 星座早見の使い方についての理解。（4年）

#### (2) 対策

- ① 磁石についた釘も磁石になるのだということを実験で感じさせ、その上で理解させる。
- ② 検流計の針の振れる向き・大きさを理解させ、実験の際に電気の流れる向きを考えさせて実験を行う。また、回路の共通点・違いを考えて問題に取り組ませる。
- ③ 実験で分かったことを文章で表記する問題に取り組ませる。
- ④ 星座早見を始めとして、実験器具の使い方については、授業中に個別チェックし、使えるよう適宜確認し、使えるようにさせていく。

今回の結果を受け、以上のような取組を中心に、全学年で子どもたちを指導していきます。これから行われる授業参観でも、紹介した取組が見られると思います。また、授業での学習内容を定着させるためには、家庭での学習も大変重要となります。今後、担任から子どもたちに、学習の定着を図るための家庭学習が出されます。保護者の皆様におかれましては、子どもたちが意欲的に取り組むよう声かけをお願いします。